



◆副院長に就任して 深貝 隆志

平成29年4月1日より副院長を拝命いたしました。開院時より、泌尿器科の診療責任者として診療に従事して参りましたが、今回、病院の管理運営に携わる職に就くこととなりました。この紙面を借りて一言ご挨拶させていただきたいと思っております。



私は、これまでは泌尿器科医としての診療全般、特に前立腺癌の診療に専念して参りました。前立腺癌の治療はロボット支援手術から抗がん剤投与まで、すべて自分で行っております。その中でも昭和大学江東豊洲病院では放射線治療の一種である小線源治療に力を入れており、日本中から患者さんが診察に来るようになりました。昭和大学江東豊洲病院の知名度を上げ、多くの患者さんを迎える病院にするためにそういった経験を役立てられればと考えております。

また4月より副院長として、「医療安全管理室長」を担当させていただくことになりました。「医療事故」というと、昔は何かトラブルが起きても患者さんと、そのご家族に納得していただければそれで良しとする風潮がありました。しかし現在は安全に医療を行うために、また万一医療事故が起きてしまったためのために様々なシステムが構築されています。ひとたび「医療事故」が起きると適切に対応しないと、病院全体が信用を失うことになり、その信用を取り戻すのは非常に困難なことになります。幸い当院には「医療安全」が専門の上條副院長、浅川課長、菅原師長、青木係長および専門に対応する優秀なスタッフがおります。今回より、私もこのメンバーに加わり、安全な医療が提供できるよう努力していきたいと思っております。

私の副院長の任期は3年ですが3年後の2020年にはいよいよ東京オリンピックを迎えることとなります。オリンピックの主立った会場の至近に位置する我々の病院も国際的イベントに貢献できることもあるかもしれません。その時まで昭和大学江東豊洲病院がさらなる発展を遂げられる様に全力で頑張りたいと思っております。皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしく御願い申し上げます。



昭和大学江東豊洲病院

第38号のトピックス

- 副院長就任挨拶
- 事務長就任挨拶
- 看護の日報告
- 七夕企画
- 防災センター紹介
- 編集後記

◆事務長就任のご挨拶 石崎 兼司

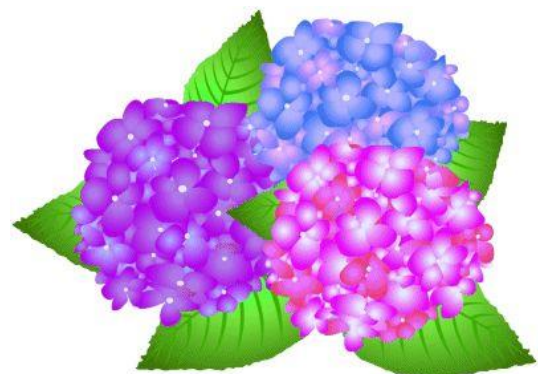
本年4月1日より事務長として着任いたしました石崎兼司(いしざき けんじ)と申します。実は二十数年前に昭和大学に入職した際に、最初の部署が豊洲病院でした。その後、烏山病院、企画調査室、入学支援課、学事課、学生課で勤務をして参りました。紆余曲折を経て再び豊洲の地で勤務するという事に、何か縁を感じます。



さて、豊洲地域は現在、35,000人近い人口となっております。これは平成10年と比較すると約5倍の増加となっております。また、オフィスの増加などにより昼間人口も53,000人近くとなっており、昼間人口も夜間人口も急増している日本でも屈指の地域となっております。更に、2020年にはオリンピックが東京で開催される予定で、多くの競技場がこの湾岸地域に集まることや築地市場の豊洲移転など、様々な点で全国から注目を集めている地域でもあります。このように注目されている地域で、当院は地域の中核病院としての役割を果たしております。

また、昭和大学は医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部からなる医系総合大学ですので、当院も教育・研究機関としての役割も果たしております。医療人を目指す学生が当院で実習を行い、より良い医療人となるための教育の場を提供することや、新しい治療薬や治療法の開発に向けての研究も積極的に行っております。

昭和大学の建学の精神は『至誠一貫』です。これは、常に相手の立場に立ってまごころを尽くす、という意味の精神です。患者さんにまごころをもって診療に当たる、まごころをもって診療に当たることができる医療人を育成する。この思いを胸に、地域中核病院として地域住民の皆さまや地域の医療機関の皆さまに愛され、頼られる病院として、また教育・研究機関としての大学病院として、邁進して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



◆看護の日イベント

みなさんは「看護の日」をご存じでしょうか。1990年、旧厚生省によってナースの誕生日にちなみ5月12日が「看護の日」と制定されました。「看護の日」には、看護の心を普及するイベントとして全国的に様々な活動が取り組まれています。



2017年5月12日、当院看護部でも患者さんやお付添いの方を対象に「看護の日」イベントを開催しました。

当日は2F総合外来受付前など院内3か所で、新人看護師による血圧測定やベテラン看護師による健康相談が行われました。午前・午後の部で計170名の方が足を運んでくださり、笑顔のあふれる和やかなイベントになりました。

新人看護師にとっては、健康相談を受ける先輩看護師の姿から多くのことを学ぶ貴重な機会になったのではないのでしょうか。ご参加いただいた方には記念品としてマスクや絆創膏、ボールペンを配布しました。

多くの患者さんや足を運んでいただいた方々とのコミュニケーションを通じて、「看護の心」の普及とともに医療に携わる私たち自身が「看護の心」を再認識できたイベントとなりました。



◆今年も星に願いを♪

本年も皆さんの願い事が叶いますように七夕企画を実施いたしますのでぜひご参加下さい。

実施期間：7月1日（土）～7月7日（金）

設置場所：昭和大学江東豊洲病院 1階外来ロビー



◆防災センター紹介

私達リジョイスカンパニーは医療現場に密着し、病院のニーズに合わせた業務を行っております。防災センター（設備）の仕事とは……皆様は何を想像されますか？

名称の様に防災に関する業務を行っている、と思われている方は多数いらっしゃると思います。防災に係る火災報知設備など、防犯に係るカメラ監視モニター、エレベーター内のモニター監視、運行監視、セキュリティカードによる通行管理など多岐にわたります。皆様が快適に一日の仕事をされるよう、設備管理も同時に行っております。

では、設備管理とはどのような業務なのでしょうか。空調管理については春夏秋冬、季節の変化にあわせて室温調整を行います。水については色、臭い、味など毎日チェックし、異常がないかを点検しています。その他、多岐に渡り建物全体の管理を行い、無駄なエネルギー消費を防ぐように努め、ライフサイクルコスト（LCC）に基づく予防保全を行い、安全で確実、かつ高いコストパフォーマンスを実践し、故障修理対応も含めて総合的な設備管理を行っております。



無愛想な感じを与えるかもしれませんが、心は晴れやかな仲間たちです。何か気づいたところがありましたら、お気軽にお声かけください。

編集後記 光山 晋一

当院が開院して早3年が過ぎ4年目に突入しています。中学や高校と同じ3年間が過ぎ去ったと思うと時が経つ早さを実感しております。新入職の方々も少しずつ新しい環境に慣れてくる頃でしょうか。新人さんがどんどんと新しいことを吸収する一方で、ついつい単調な日々になりがちな自分は毎年春に誕生日を迎えるたびに中国の朱熹の『少年老い易く学成り難し』という言葉が頭を過ぎります。日々の業務をただこなすのではなく、新しいスタッフとともに成長していければと決意する季節です。



昭和大学
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：長谷川 真



Showa University Koto Toyosu Hospital